

株式会社型 DMO

による事業開発

株式会社型 DMOとは？

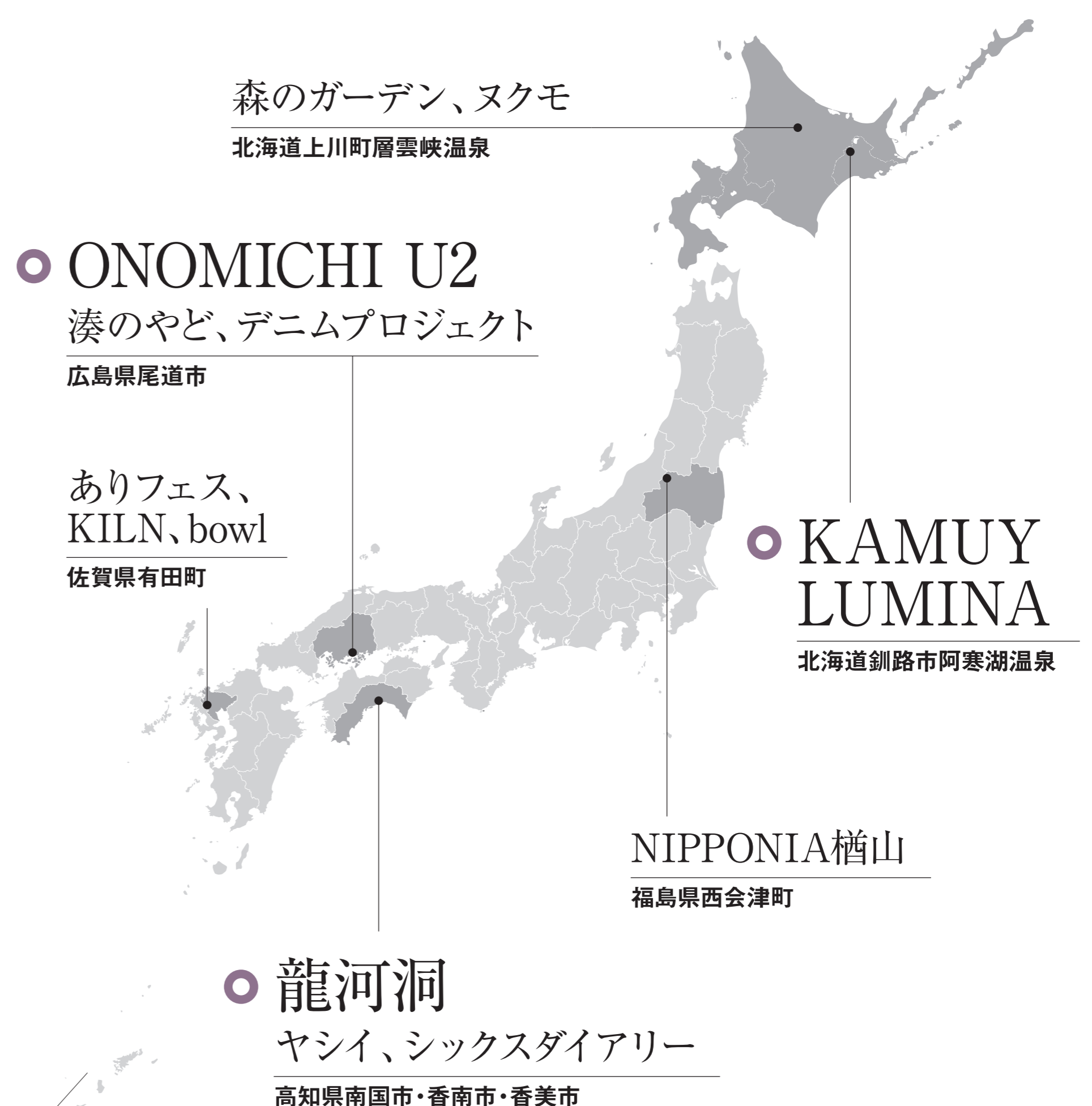
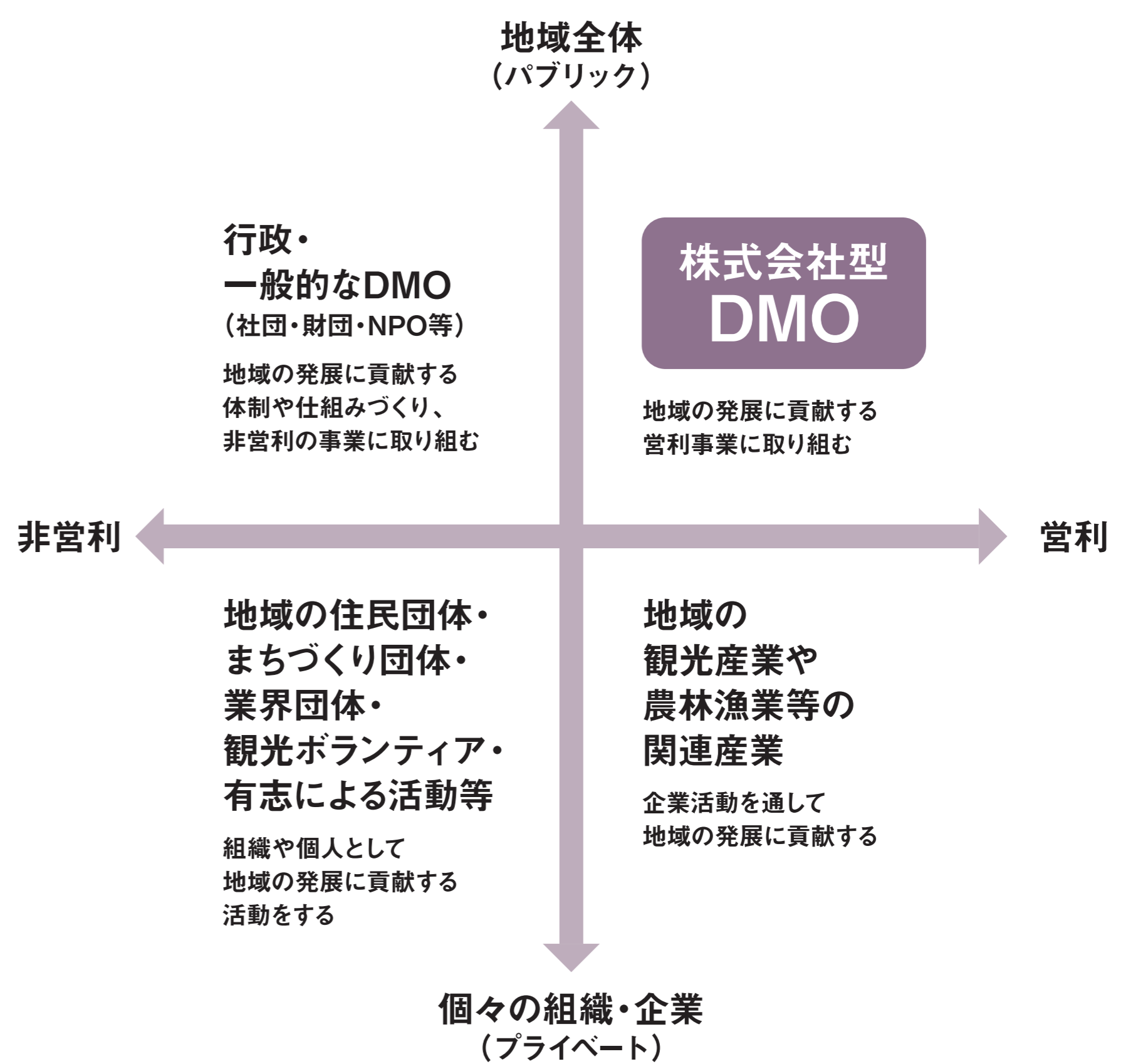
観光地のマネジメントやマーケティングを担う組織、DMO (Destination Management/Marketing Organization) は、観光を通じた地域活性化の担い手として各地で設立されているが、その一部に、株式会社であるDMOやDMOが設立した株式会社が見られる。事業内容を見ると、地域で提供する宿泊、飲食、物販、体験コンテンツの運営、それらの提供の核となる観光施設の運営、地域商社等の地域外への物販、着地型旅行の販売といった多様な収益事業に携わっており、DMOとして直接収益事業を行うことで、地域の活性化をけん引している。

DMOによる事業開発

株式会社型DMOによる事業は、開発タイプにより3つに大別される。1つ目が、新規事業の立ち上げから運営までをすべて地域で担うタイプ。2つ目が、既に存在している事業の活性化、もしくは立ち行かなくなってしまう事業の再生を行うタイプ。3つ目が、事業の主軸となる部分の開発や運営を、地域外の企業と連携して行うタイプである。株式会社型DMOによる事業がどのタイプによって開発されるかは、地域が有している資源との対応関係によって決まる。事例として、地域づくりのコンセプトをもとに新たに立ち上げられた「ONOMICHI U2」、既存観光施設の活性化に挑む「龍河洞」、海外企業とともに新たな魅力づくりに取り組む「KAMUY LUMINA」について紹介する。

開発パターン	事業
1 新規事業の開発	U2(宿泊・飲食・物販)、湊のやど(宿泊)、デニムプロジェクト(物販)、ありフェス(イベント)、KILN(飲食)、bowl(物販)、NIPPONIA 檜山(宿泊)
2 既存事業の再生・活性化	龍河洞(体験)、ヤシイ(飲食・物販・体験)、シックスダイアリー(宿泊・飲食)、森のガーデン(宿泊・飲食・体験)
3 地域外企業との連携	カムイルミナ(体験)、ヌクモ(体験)

観光地域づくりに取り組む組織と株式会社型DMOの位置付け





建築と観光とサイクリングの街に

ONOMICHI U2

By ディスカバーリンクせとうち (広島県尾道市)

新規事業の開発

事例

1

「ONOMICHI U2」は、尾道水道沿いの海運倉庫を再生した施設で、サイクリストフレンドリーなホテルやレストラン、カフェ、ショップなどを備えている。尾道駅西側エリアの拠点施設として、観光客やサイクリストのほか、地元客にも多く利用されている。この施設を手掛けたのが、株式会社ディスカバーリンクせとうち(以下DLせとうち)である*。

※2019年3月に事業再編を行い、現在は別会社が施設の運営を担っている。

地域のポテンシャルに着目

DLせとうちは尾道市を中心に宿泊や飲食、物販など様々な事業を展開してきた観光地域づくり法人である。尾道の特徴である、別荘や古民家のある景観、しまなみ海道サイクリングの出発地という地域のポテンシャルに着目し、「建築と観光とサイクリング」を柱に事業を進めている。

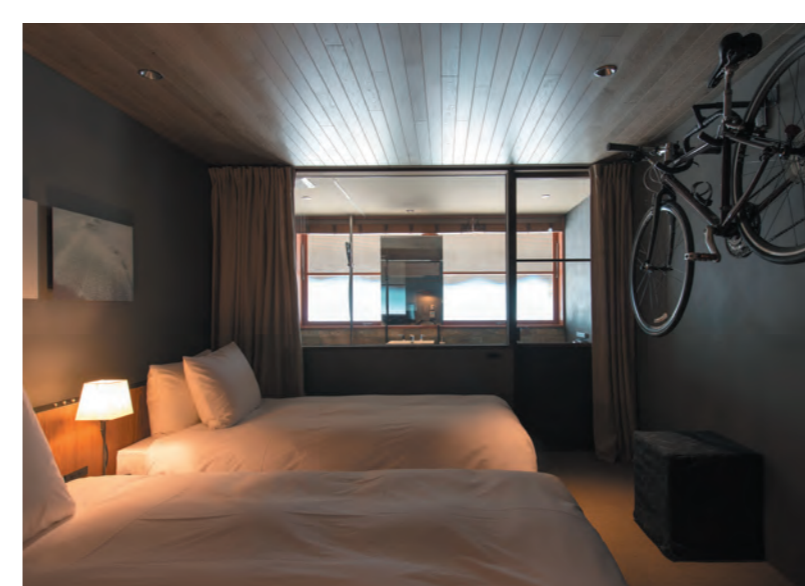
ONOMICHI U2はこうしたコンセプトにより開発された事業のひとつである。建物は築70年に達する広島県所有の海運倉庫で、広島市の建築設計事務所「SUPPOSE DESIGN OFFICE」の設計によりおしゃれな施設へと生まれ変わった。施設内には、全室で愛車を室内に持ち込むことができる宿泊施設「HOTEL CYCLE」や、自転車メーカー「GIANT」のショップ、自転車に乗ったままコーヒーが買えるサイクルスルーのカフェなどがある。

地域の人に“いい”と思ってもらえる事業

また、レストランはランチを中心に地元客で賑わう。ショップでは観光客向けの商品に加え、地元客向けに、東京や大阪でしか手に入らない商品も揃えている。観光客だけではなく、地元客のニーズも組み合わせることで、賑わいのある拠点を生み出した。



GIANT STORE



HOTEL CYCLE (photo: Tetsuya Ito)



The RESTAURANT (photo: Tetsuya Ito)



一大観光スポットのリニューアルプロジェクト

龍河洞

By 龍河洞みらい(高知県香美市)

龍河洞は国の天然記念物及び史跡に指定されている1億7500万年前の鍾乳洞で、博物館や珍鳥センター、土産店などの商店街を有する複合的な観光スポットである。「心の中の冒険体験」をコンセプトに2019年7月に生まれ変わった。

観覧型から体験型への転換

高知県の一大観光地として、1970年代には年間約100万人の観光客が訪れていたが、施設の老朽化とともに客足が落ち込み、近年では年間約10万人程度の入込となっていた。そこで従来型の観覧型スポットから体験型スポットに転換すべく、2016年からリニューアルプロジェクトが始動した。関係者や地域住民、県、市などによる「龍河洞エリア活性化協議会」と、プロジェクトの推進役となる「株式会社龍河洞みらい」によって進められた。



商店街のリニューアルも検討されている

既存事業の再生・活性化

事例

2

既存事業の運営を支援

龍河洞みらいは、物部川エリアの観光地域づくりを担う「株式会社ものべみらい」のグループ会社である。龍河洞の保存・管理を行っている「公益財団法人龍河洞保存会」より業務委託を受け、龍河洞の運営支援やマーケティングを担っている。主にコンテンツ開発やプロモーションを行っており、「心の深いところ」への冒険体験に誘う洞窟内でのプロジェクションマッピング、来訪者の世界観への没入を手助けする照明・音響による演出、洞窟内をガイドとともに探検するコースの拡充、高知大学地域協働学部の実習学生が主体となる休憩所カフェの企画・運営等に取り組んでいる。



洞の長さは約1kmに及ぶ



冒険コースも用意されている



世界最高峰のマルチメディア・エンターテインメントとアイヌ文化の連携

地域外企業との連携

KAMUY LUMINA

事例

3

By 阿寒アドベンチャーリズム株式会社(北海道釧路市)

自然×アイヌ文化×デジタルアートの 体験型観光コンテンツが阿寒の森に誕生

2019年7月、阿寒摩周国立公園の阿寒湖の森を舞台に、「自然」と「アイヌ伝説」を体感する、これまでにない新感覚のデジタルアートコンテンツ「阿寒湖の森ナイトウォーク KAMUY LUMINA(以下カムイルミナ)」が誕生した。

「カムイルミナ」の参加者はアイヌの杖をモチーフに作られた「リズムスティック」を手に、約50分をかけて夜の森を冒険する。デジタル画像で現れるアイヌの村の守り神「コタンコロカムイ(フクロウ)」やカムイの世界にメッセージを届ける「カケス」とともに、真っ暗な夜の森を冒険しながら、自然を敬い感謝し、共存してきたアイヌ民族が大切にする世界観「自然との共生の大切さ」を体験する。



阿寒湖畔の森(ボッケの遊歩道)を舞台に、阿寒のアイヌに古くから伝わるユーカラ(叙事詩)「フクロウとカケスの物語」を歩いて体験する。



木の枝にとまるフクロウ、湖畔に現れるマリモなど、森に暮らす動植物の姿が自然に溶け込むよう描かれる。

世界で展開される10番目の「ルミナ・ウォーク」

世界最高峰のマルチメディア・エンターテインメント・カンパニー「Moment Factory社(本社カナダ・モントリオール)」は、カナダ、シンガポール、日本で「その土地の文化と自然をもとに創り上げる『ルミナ・ナイトウォーク』シリーズ」を展開している。「カムイルミナ」はその10番目の作品で、初の国立公園を舞台にしたものとなる。

Moment Factory社CEOドミニク・オーデット氏は「アイヌ文化とのコラボレーションという点では、どうすればこの素晴らしいアイヌ文化である『自然との共生』というテーマが皆さまに伝わるか、阿寒アイヌの方々と何度も何度もディスカッションしながら創り上げた」と語っている。

国立公園の自然と景観への配慮

「カムイルミナ」は、環境省の「国立公園満喫プロジェクト」の目玉事業に位置づけられ、環境省や林野庁、阿寒の森約3600ヘクタールを所有し、長年の自然保全に取り組む前田一歩園財団の協力のもと、国立公園の自然環境に配慮したプログラム作りを進めている。

動植物や景観に配慮した取り組み例

- 事前に環境アセスメントを実施。
貴重な動植物への影響がない計画づくりと実施中・実施後のモニタリングを実施。
- 日中に自然散策を楽しむ観光客の目に人工物が目に入らないよう、機材等は都度撤去したり、カモフラージュ。
- 事業の収益の一部を阿寒湖温泉の環境保護活動やアイヌ文化振興に寄付。